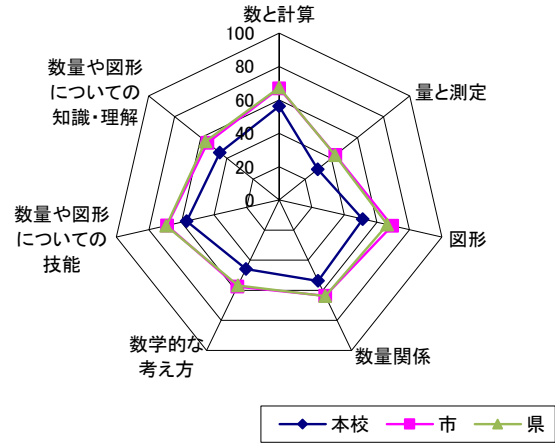


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.2	66.9	67.4
	量と測定	29.6	43.2	43.0
	図形	51.4	69.4	66.5
	数量関係	53.8	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	45.8	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	56.8	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	45.5	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○3位数×2位数=4位数、小数(小数第2位)－小数(小数第1位)の計算は他の設問に比べると正答率が高い。ドリルやプリントを使っでの反復学習の成果であると考えられる。</p> <p>●1.8は0.01を何個集めた数かを選ぶこと、数直線上の矢印の値を表す数を分数で表すことについての設問の平均正答率は、33.7%と県の平均を15ポイント下回っており、数直線の活用に課題が見られる。</p>	<p>・今後の授業でも数直線や図など様々な方法を用いての小数や分数の大きさを捉える学習活動をさらに充実させ、小数や分数の意味や大きさの理解が図れるようにする。</p> <p>・今後も計算の仕方についてさらに丁寧に指導し、朝の学習や家庭学習等で、多くの練習問題に取り組ませていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶかを求めることの設問に対する平均正答率は29.8%、式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明することについての設問の平均正答率は11.5%と低く、思考力、表現力に課題が見られる。</p>	<p>・授業では体験活動を取り入れた学習を充実させ、今後学習する体積の求め方でも理解が図れるようにする。また単位の関係を再認識することで単位の変換を計算で求められるようにする。</p> <p>・身の回りものを使っておよその面積や角度を求める活動を取り入れることで量感を育てていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかく平行四辺形を完成させる設問の平均正答率は、県の平均を大きく下回っており、決められた条件で作図することに課題が見られる。</p>	<p>・授業では基礎的な学習を大切にし図形の性質を意識できるように指導していく。</p> <p>・作図では三角定規やコンパスの使い方を繰り返し練習させていく。また、三角定規やコンパスの特性を理解させ、適切な作図ができるように指導していく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●買い物の場面で1つの式に表した考え方を完成させることについての設問の平均正答率は37.5%と低く、日常的なことを式に表すことに課題が見られる。</p>	<p>・今後の授業でも表が取り上げられたときには、表の変化の特徴を見つける学習を繰り返していく。その際「同じように変化しているところはないか」「規則的な変化をしているところはないか」などの視点を与える。</p> <p>・日常的な場面で式に表せる課題にも多く取り組ませ、式の意味と日常的な場面を結び付けて考える力を育てていく。</p>